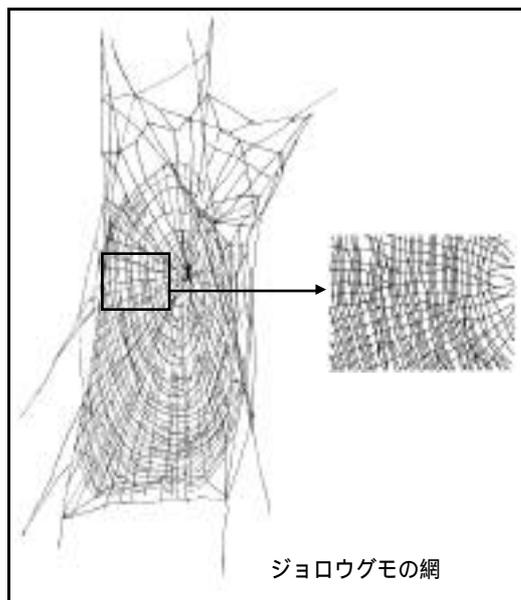


ジョロウグモ

休みも終わりに近く秋めいてきたかなと思われる頃、山道を歩くと、体の長さが2～3cm、足も入れると6cmもあるたいへん大きなクモが、これまた50cmをこえる大きな網を張っているところに出くわすことがあります。狭い山道ですと、道を横断して張っているの、うっかりしていると顔に網がかかったりします。円筒形の腹部が黄色で灰青色の横じま模様があり、腹側の赤色がよく目立つこのクモは、ジョロウグモのメスです。上臈（位の高い女官のこと）から付けられた名前でも、雅なもしくは艶やかな様子からそう呼ばれたのでしょうか。夏の終わりから秋にみられる代表的なクモ、ジョロウグモについてご紹介しましょう。



網とえさ

ジョロウグモの網は、よく見ると、三重になっています。中央の網が最も大きくきちんと網状になっています。その前後に小ぶりの、荒い不規則な網があります。中央の網はたいへん目が細かく、数本おきに横糸の間隔が少し開き、まるで五線譜のように見えませんか。横糸は中心部から下に多く上にはほとんどありません。全体として馬蹄型に見えます。

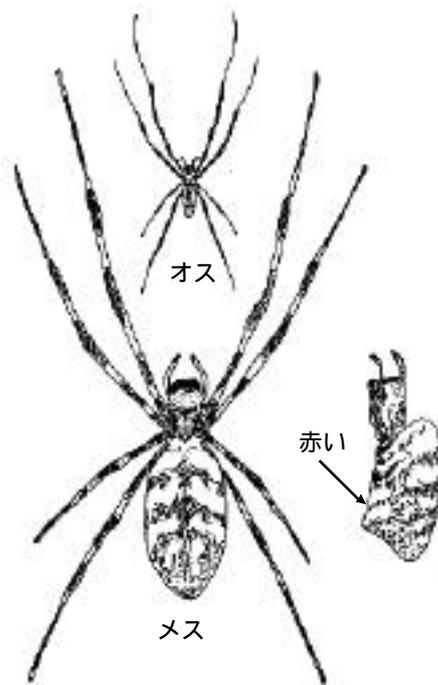
このような網を張るのは、ジョロウグモしかいません。縦糸には粘りけがなく、横糸に粘りけがあり、虫がからみつくな

っています。

網を張るクモは網にかかった虫しか食べません。チョウやガ、ハエなどが多く、トンボやセミ、時にはキリギリスの仲間のような大きな虫がかかっていることもあります。

交尾・産卵

網をよく見ると小さなクモが1頭もしくは数頭いることがあります。これはジョウロウグモのオスです。メスと比べるとうんと小さく、体の長さは1cm足らずです。オスは大きなメスに精子をわたす機会をうかがっているのです。ジョウロウグモのオスは成体になると、メスの巣に同居するようになりますが、ほとんどえさは食べないようです。オスは、メスが最後の脱皮をして成体になる時を見はからって、精液をメスに渡します。メスは10月半ばになると網から離れ、木の葉や幹に楕円形の白い卵囊を付けます。その中には500個ほどの卵が産みつけられます。卵囊が目立たないように、メスは木の皮や枯れ葉を張り付けます。



誕生から大人へ

卵で越冬したジョウロウグモは、5月半ばに子グモが誕生し、卵囊から出てきます。子グモ達は、数日間は一団となっていますが、やがて木の枝の上に登ってゆき、おしりから糸を出しその糸を風に流し、枝先から糸に乗って旅立って行きます。あちこちに分散した子グモは、木の枝や葉の間に5cmほどの小さな丸い網を張り生活を始めます。6月、7月ごろはまだ体も網も小さいので目立ちませんが、体が大きくなるにつれ網も大きくなってゆき、秋にはあんなに大きくなるのです。

クモというと気味悪がられることが多く、また外国からの毒グモの侵入騒ぎもありよけいにきらわれてしまっているようです。しかし、クモの生活にもえさの取り方、網の張り方、卵囊などさまざまに興味深いものがあります。クモが網を張ったからといって、すぐにはとり払わず、どうかゆっくりと観察してみてください。

(根来 尚 ねごろ ひさし)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764-91-2123)
ホームページ <http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成10年8月1日